

オンソイ！マレーシア！

氏名： 矢吹 怜美

学校名： ①幌延町立幌延小学校 ②稚内市立増幌小中学校

担当教科： TT

実践教科： 総合的な学習の時間

時間数： 2

対象学年： ①小学4年②小学3・4年 人数： ①17人 ②3人

学習領域

	1	2	3	4	関連するSDG s
A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生		目標 4 すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保（文化多様性への理解）
B グローバル社会	相互依存	情報化			
C 地球的課題	人 権	環 境	平 和	開 発	
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：

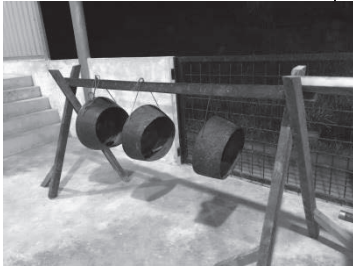

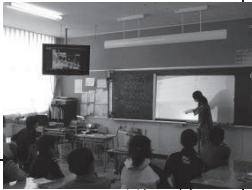
マレーシアの文化や習慣、生活を知ったり体験したりすることを通して、自国の文化との違いに気づき楽しむことができる。

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 関心・意欲・態度	マレーシアの文化や習慣、生活に興味をもち、違いを楽しむことができる
	(イ) 思考・判断・表現	
	(ウ) 技能	仲間と協力して、認め合いながら課題に取り組むことができる
	(エ) 知識・理解	マレーシアの文化を理解することができる
【3】 単元設定の理由	<p>世界にはまだまだ知らないことが山ほどある。実は自分たちが知っていると思ったのはイメージで、ほんのわずかな事実過ぎないと子どもたちに気付いて欲しい。だからこそ、マレーシアの文化を体験することで、自国の再認知、そこから「違う」を楽しめる素地を養いたい。</p> <p>1時間目は、導入として「マレーシアから転校生がやってきた」という設定で、マレーシアの生活を切り取って想像させる。答えを教える前に想像することで、細部までじっくりと見て考えることができる。その後、本校から持っていったビデオレターの様子を見せる等、マレーシアについて少しずつ段階をおって情報をあたえていく。</p> <p>2時間目は、体験ラリーで子どもたちが実際に五感を通してマレーシアの文化を体験する。五感で知ったことは、強く印象に残る。「知る」ことから始め、子どもたち自身が身近な世界、そして見知らぬ世界を多様な視点で見たい。</p>	
✓ 児童/生徒観		
✓ 教材観		
✓ 指導観		

【4】展開計画（全2時間）

※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更して下さい。

※活動・内容の部分は具体的に記載下さい。適宜写真を添付下さい。

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	<p>・フォトランゲージの体験を通して、マレーシアと日本の違いについて理解を深めることができる。</p> <p>・マレーシアの文化に興味関心をもつことができる。</p> 	<p>①マレーシアからの転校生イマクアージャについて紹介を聞く。自己紹介のマレー語での練習等を行う。</p> <p>②イマクアージャさんが用意してくれた「わたしの大好きなもの」の写真をみて、説明を考える。</p> <p>③写真と説明原稿の組み合わせを考えて、改めて説明を読みあう。説明原稿の質問で、違うと同じができるようにする。例えば、日本にも似たような遊びはありますか？などにして、2時間目につながるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">写真①の題名</p> <p style="text-align: center;">『大好きな時間』</p> <p>これは、おどりをおどる時に使う楽器です。大きいドラはひくい音、小さいドラは高い音ができます。「イーグル・イーグル」のおどりは、家族みんながおどれるけど、わたしが一番上手かな。日本にも、家族みんながおどれるおどりってありますか？わたしもおどってみたいな。</p> </div> <p>④ビデオレターの結果や、他の現地で撮った写真も見せ、次時につなげるようにする。</p> <p>⑤学習を振り返り、感想や新たな疑問について発表しあう。</p> <p>⑥次時予告。</p>	<p>・写真</p> <p>・説明原稿</p> <p>・イマクアージャさん役</p>  
2 本時	<p>・体験ラリーを通して、マレーシアの文化を疑似体験し、マレーシアの文化に親しむ。</p>	<p>①体験ラリーのルールを説明する。</p> <p>②各スタート地点へ向かい、スタート。地図のマスにそって活動していく。</p> <p>③学習を振り返り、感想や新たな疑問について発表しあう。</p>	<p>・トドン、帽子</p> <p>・セパタクロ</p> <p>…等</p> <p>体験ラリーの準備</p>

【5】 本時の展開

※過程の網掛け部分は適宜変更下さい。

※詳細に記載ください。

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
<p>導入</p> <p>(7分)</p> <p>展開</p> <p>(25分)</p> <p>まとめ</p> <p>(13分)</p>	<p>○前時の復習（クイズ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マレーシアの場所 ・「ありがとう」 ・「こんにちは」 <p>○ルールの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームで地図を用いて体験ラリーを行う。 ・各チームとも、最初は30リングット持っている。 ・サイコロをふり、出た目の数だけ任意の方向へ進む。 ・マスは、番号マス（書いてある番号の場所へ行って体験）、ゲットマス（カード置き場まで行ってゲットカードを引く）、ふつうのマス（何もなし）、場所マス（通り過ぎたらカードをもらえる）がある。 ・一度行った番号マスは進む数には入れるが体験は行わない。 ・ゲットカードは荷物係が音読みし、皆に聞かせる。 ・指示をパスする場合、5マス戻る or 5リングット払う。 <p>○時間まで体験ラリーを行う。</p> <p>○ふりかえりをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてを達成できたか ・感想 	<ul style="list-style-type: none"> ・他にも覚えていることを尋ね、意欲を高める。 ・係～タブレット係（撮る）、サイコロ係（ふる・お金を持つ）、地図係（進むマス目を見る）、荷物係（シールを取りに行く、お金をはらう、ゲットカードを音読する）を決める。 <p>※小学3年以上で習う漢字には振り仮名を基本ふることで、漢字の苦手な児童も自主的に取り組めるようにした。</p> <p>※あえてワークシートでは、子どもたちに「同じ」と「違う」を直接探させない。</p>	<p>資料②③④</p>

【授業実践の様子】（本時での写真を添付し、キャプションをつけて下さい）



番号マス「セパタクロー体験」



番号マス「チョンカ体験」



場所マス「バンブーダンス体験」

【6】本時の振り返り

- ・チームで行ったことで、配慮の必要な児童も楽しく活動することができた。また、文章理解の苦手な児童でも読み取りやすいように、カード下部に簡略的に見てわかるマークをつけたことで安心感をもって体験することができていた。
- ・動画をタブレットで児童に再生させる仕組みにしたことで、もう一度見直したいときに見たり、一時停止を使ってじっくりと観察したりすることができた。また、記録用に各チームにタブレットを渡すことで、他のチームの動画や写真をあとで見返すことができ、交流に役立てることができた。
- ・個人制で行った場合、①ゲットカードは個人のもの、②番号マスは全員で行うことにした。
- ・たくさんマレーシアのことを知ったり体験したりしてほしいという願いは達成できた。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

別紙参照。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

- ・マレーシアや日本以外の国のことをもっと知りたいという意欲を引き出すことができた。特に、1時間目のイマクアージャさんの問いかけ、2時間目の体験が大きく作用したと感じる。
- ・始め、ステレオタイプな途上国のイメージをもった児童、逆に外国＝アメリカ、ロシアのような先進国のイメージをもった児童の両極端なイメージからスタートした。約1週間の研修の中で手に入れた生活に根差した様々な資料を提示することで、先入観を取り払えたことが2時間目の興味関心に大きく寄与したと思う。
- ・始め、バナナの葉を見て、複数の児童が「とうきびだ！おいしいもんね！」と自分の経験から答えを出していた。「長い平たい葉＝とうきび」という北海道の常識ともいえる情報が、実は違った、という体験、そしてそれが身近なバナナの葉という事実に子どもたちは衝撃を受けていた。

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

（授業前）

- ・田舎でビルは全然建っていないイメージ

- ・平和で人が少ない
- ・暑くて、色々な民族がいて治安が悪い国
- ・寒いイメージ。
- ・アメリカとかそんな感じ。
- ・貧しくて、食べものがあまりないような国。
- ・アメリカみたいに科学が発達しててビルとかセレブの住む家ばかりだと思った。

(授業後)

- ・マレーシアって人が多いけど平和だ！
- ・自然がいっぱいだ！文化がたくさんある。
- ・文化多すぎ（すごい）。もっと知りたい。
- ・マレーシアってビルがあるんだ。
- ・色々な場所の文化をもっと知りたい。
- ・マレーシアに行ってみたいんだ！
- ・行事、スポーツ、食べもの、文化をもっと知りたい（多数）
- ・あまり貧しくなく食べものが豊富で暮らしやすい場所だったんだ。
- ・イマクアージャちゃんの好きなものがとうもろこしじゃなくてバナナだったのが面白かった。なべじゃなく太鼓で面白かった。他の国の文化も知りたい。

【8】自己評価

1. 苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティのネーミング。指導案検討や授業前の教師への説明で、ルールを説明してもなかなか伝わらなかった。実物を見せて説明すると伝わったので、子どもたちには旅行の方法を実例で示して説明し、スムーズに行うことができた。後で、通常思い描いているすごろくとイメージが異なることに気付いたので、すごろくから体験ラリーに名称を変えた。 ・宗教の扱い。特に、女性が身に付けているヒジャブに女兒の関心が高く、「女は～しなければならぬ」と植え付けられないよう説明に配慮した。
2. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーナスポイントは個人扱いにする。 ・今回、幌延町情報教育センターとも関係して、体験コーナーに一台ずつタブレットを用意し、各チーム1台ずつ記録用タブレットを配付する等ICT機器を活用した授業の組み立てにした。やはり効果は高く、これからもどんどん活用していきたい。しかし、周りの話を聞くと、ここまでICT機器が揃っている環境を探すほうが難しいようだ。であれば、この指導案の汎用性を出すためには、体験コーナーの動画部分を紙芝居風にめくる方式にする等、アナログ方式の方法も考えておかねばならない。 <p>(追記) ①体育館を使って実施②教室で実施、の2パターンを行った。②では、タブレット1台で体験マスを全体実施。タブレットが無くて、パソコンとTVがあれば紙芝居にしなくても実施していけそうだと感じた。</p>

3. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を使用することで、児童に合ったスピードで各々体験を進めることができた。 ・2回目の体験ラリーでは、日本・マレーシア両方の違う面白さに気付く等、多様な視点から楽しむことができていた。 ・マレーシアの紹介から、じゃあ他の国はどうなんだろう？と書いていた児童もいて、国際理解の最初の一步を踏み出したように思う。 ・番号マス、ゲットカードは児童の実態に合ったその場限りの司令がすぐに出せ、使い勝手がよい。 ・児童が思いのほか「マレーシアから転校生が来た！」という設定に親しみを感じていた。そのおかげで、どの学級でもイマクアージャさんの好きなものを当てようと意欲的に活動し、「同じ」と「違う」に能動的に気づく児童が多かった。
4. 備考（授業者による自由記述）	<ul style="list-style-type: none"> ・お金をポイントに換算するかどうか迷った。お金はゲットカードでの指示やパスの際に使用していた。点数を数える際、目的がぼやけそうで今回は換算しなかった。 ・より関心を高めるために、名称を「調査隊」とするのも良いと思った。ただ、それだとマレーシアと日本との「違い」を探す活動になり、「違い」が強調される。また、調査結果は後で書くことにしないと、チーム内で書くスピードの個人差が出てしまうため、このまま追試を行う。

添付資料：

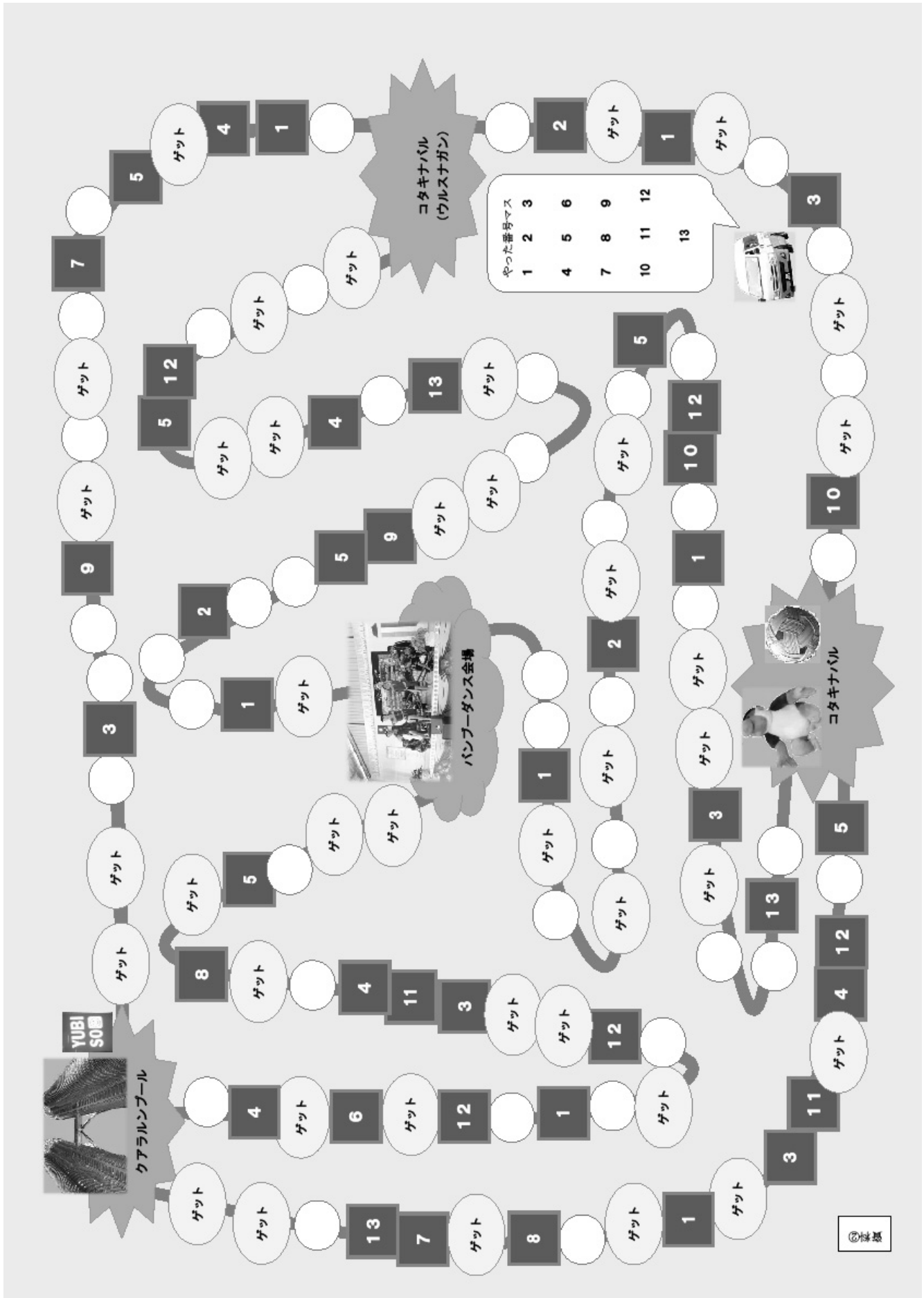
資料①ワークシート 資料②体験ラリー地図 資料③ゲットカード 資料④シール

参考資料：

・2016年度教師海外研修（北海道地域）実践報告集

・JICA北海道HP 教師海外研修実践報告書

(https://www.jica.go.jp/sapporo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/practice_report.html)



資料③

ホームステイ先で、ごはんを用意してくれた。今日のメニューはミーゴレンだ！「トゥリマカシー」と言って食べる。

くだものの女王、マンゴスチンを市場で発見。一ふくろ8リングットのものを買う。

市場を歩いていると、旅人が果物の女王、マンゴスチンを食べていた！優しい旅人だったので、わけてくれた。お礼を言って食べる。

おや？北海道…？マレーシアで北海道チーズタルトというお店を見つけた！1リングットでタルトを買う。

まいごのねこを助けたら、かい主がお礼に20リングットくれた！お礼も言われたので、「サマサマ（どういたしまして）」と言う。

「トゥリマカシー」



8リングット



「トゥリマカシー」



1リングット



「サマサマ」

20リングット

マングローブを植林して森林がふえたので、マレーシアの人に感しゃされたよ！さいころをふって、出た目×2マス進むことができる。

川でかみの毛をあらうのって面白いな♪気分ルンルンでさいころを2回ふることができる。

バスで川をわたることにせいこう！おいわいでさいころをふって、出た目×2リングットもらえる。

おみやげ屋さんのおにいさんが、安くしてくれた！さいころをふって、1・2・3ならキーホルダーをもらえる。4・5・6なら何もなし。

コンビニのお兄さんが、おまけしてくれた！さいころをふって、1・2・3・4ならせいこう。5・6ならしっぽいでポケットティッシュをもらおう。



出た目×2マスを進める



さいころを2回ふる

さいころをふる

出た目×2リングット

さいころをふる



さいころをふる

5・6なら

資料④



セバタクロウ ③



鳥笛 ③



水 ③



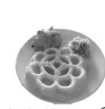
リビタ ③



マングザルのぬいぐるみ ③



ミロ ③



おかし ⑦



セバタクロウ ③



鳥笛 ③



水 ③



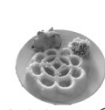
リビタ ③



マングザルのぬいぐるみ ③



ミロ ③



おかし ⑦



セバタクロウ ③



鳥笛 ③



水 ③



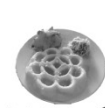
リビタ ③



マングザルのぬいぐるみ ③



ミロ ③



おかし ⑦



セバタクロウ ③



鳥笛 ③



水 ③



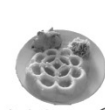
リビタ ③



マングザルのぬいぐるみ ③



ミロ ③



おかし ⑦



セバタクロウ ③



鳥笛 ③



水 ③



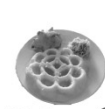
リビタ ③



マングザルのぬいぐるみ ③



ミロ ③



おかし ⑦